

2023年度 第1四半期

---

# 決算資料

2023年8月3日

株式会社 TBS ホールディングス

2023年度 第1四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先

〒107-8006

東京都港区赤坂5丁目3番6号 株式会社TBSホールディングス 社長室 広報・IR部

Tel : 03-3746-1111 (代表) HP : <https://www.tbsholdings.co.jp/ir/>

2023年度 第1四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

## 2023年度 第1四半期決算

- ▶ 連結全体では増収、営業減益。経常利益は受取配当金の増加により増益。親会社株主に帰属する四半期純利益は投資有価証券売却益の前期との規模差で増益。第1四半期の売上高としては、歴代最高。第1四半期の経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益としては、2009年度のホールディングス化以降、最高。
- ▶ メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビのスポット収入が減少したものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長。また、TBSテレビの事業部門や、TBSグロウディア・TCエンタテインメントのDVD販売が大幅に増加し増収。一方で、番組制作費の増加などにより減益。
- ▶ ライフスタイル事業は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴う人流回復や化粧品販売の好調などで増収となったものの、通信販売事業の受注の減少と、雑貨小売販売事業の原価率上昇や店舗運営コストの増加などの影響で減益。
- ▶ 不動産・その他事業では、賃料収入の増加などにより増収増益。

## 2023年度 業績見通し

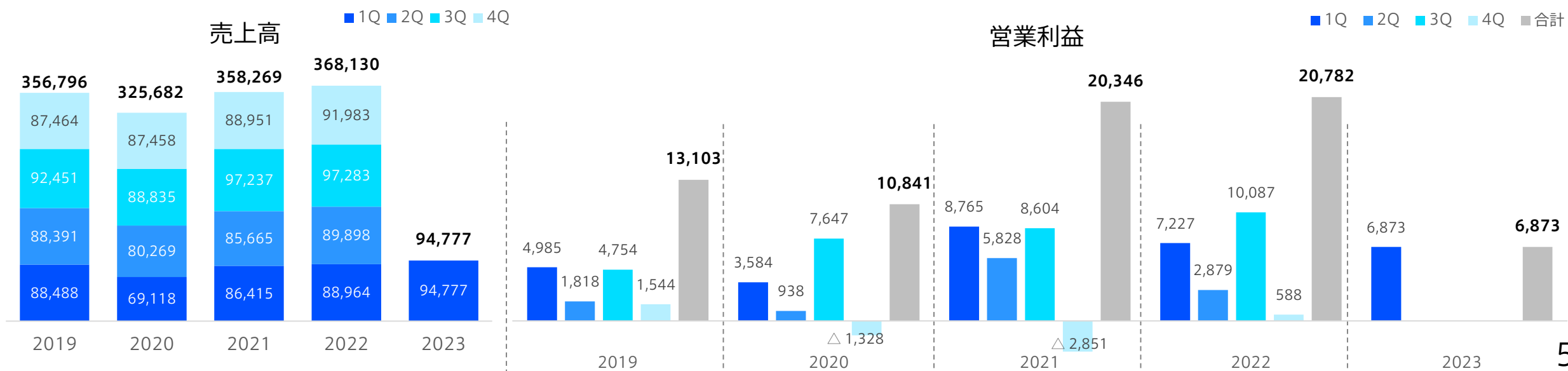
- ▶ 第1四半期での業績予想の修正はありません。

# 第1四半期 連結損益計算書

連結全体では、増収、営業減益。経常利益は受取配当金の増加により増益。親会社株主に帰属する四半期純利益は投資有価証券売却益の前期との規模差で増益。

(単位：百万円)

連結	2022年度 1Q (4-6月)	2023年度 1Q (4-6月)	前年差	増減率
売上高	88,964	<b>94,777</b>	+5,812	+6.5%
営業利益	7,227	<b>6,873</b>	△353	△4.9%
経常利益	13,794	<b>13,963</b>	+169	+1.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,599	<b>9,715</b>	+2,116	+27.9%



(単位：百万円)

	外部売上				営業利益			
	2022年度 1Q (4-6月)	2023年度 1Q (4-6月)	前年差	増減率	2022年度 1Q (4-6月)	2023年度 1Q (4-6月)	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	68,827	<b>73,869</b>	+5,042	+7.3%	4,260	<b>4,052</b>	△207	△4.9%
ライフスタイル	16,098	<b>16,746</b>	+647	+4.0%	1,009	<b>671</b>	△338	△33.5%
不動産・その他	4,038	<b>4,160</b>	+122	+3.0%	1,946	<b>2,146</b>	+200	+10.3%
調整額	—	—	—	—	11	<b>3</b>	△7	—
連結	88,964	<b>94,777</b>	+5,812	+6.5%	7,227	<b>6,873</b>	△353	△4.9%

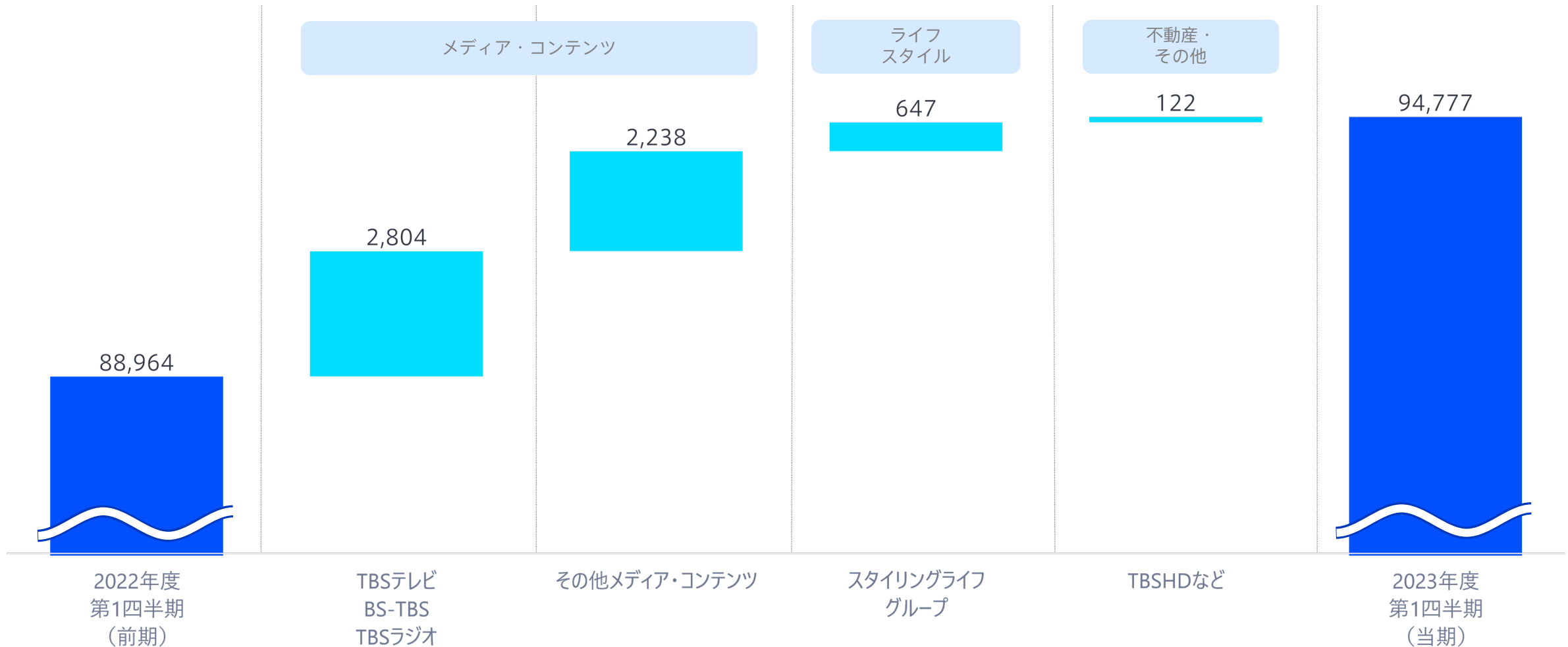
増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	TBSテレビ (+2,900) TBSグローディア (+1,261) TCエンタテインメント (+531) CS-TBS (+384)	TBSテレビ (△980) TBSグローディア (+507) TBSアクト (+311) TCエンタテインメント (+296)
ライフスタイル	スタイリングライフグループ (+647)	スタイリングライフグループ (△338)
不動産・その他	TBS HD (+180) TBSテレビ (+159) 緑山スタジオ・シティ (△201)	TBS HD (+240)

# 連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

▶ メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビのスポット収入が減少したものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長。また、TBSテレビの事業部門や、TBSグロウディア・TCエンタテインメントのDVD販売が大幅に増加し増収。ライフスタイル事業は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴う人流回復や化粧品販売の好調などで増収。不動産・その他事業も、賃料収入の増加などにより増収。連結全体でも増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



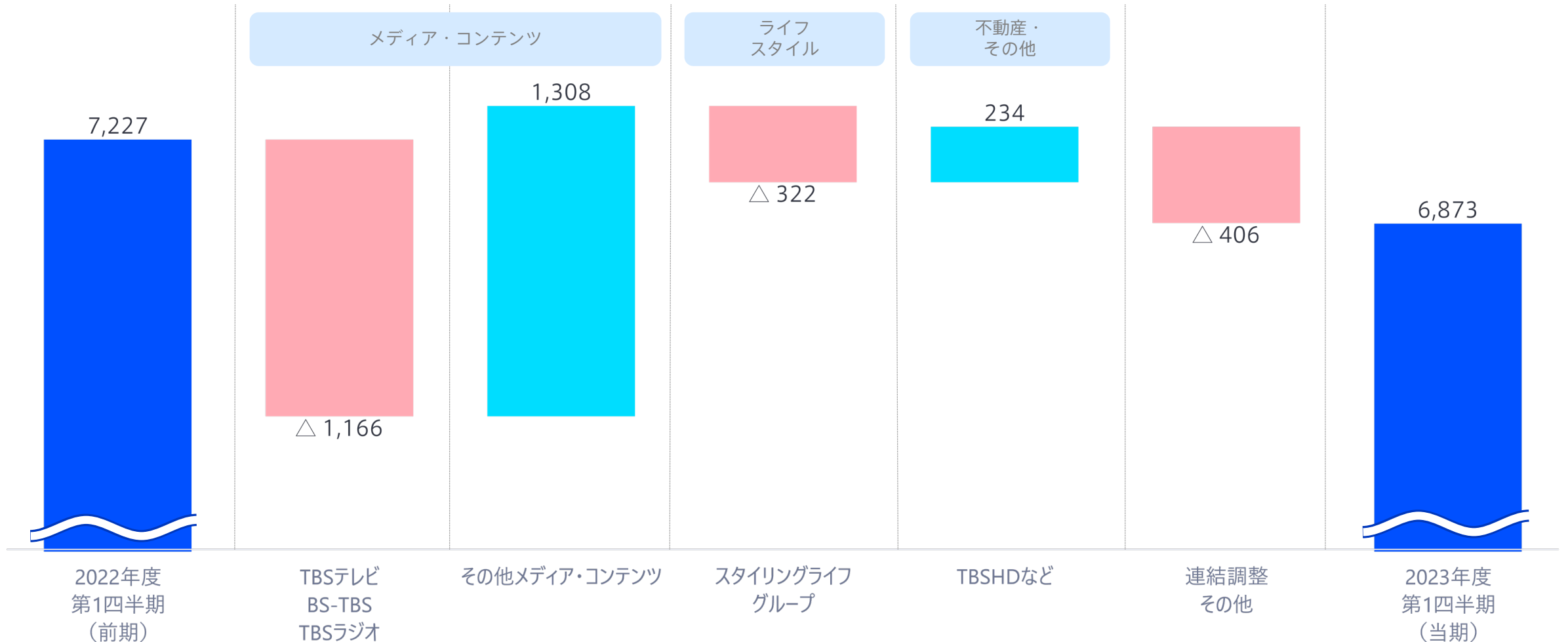
# 連結セグメント別 営業利益の増減要因



メディア・コンテンツ事業は、地上波広告収入が減少する中、番組制作費が増加。連結調整その他を加味すると減益。  
 ライフスタイル事業は、通信販売事業の受注の減少と、雑貨小売販売事業の原価率上昇や店舗運営コストの増加などの影響で減益。  
 不動産・その他事業は、賃料増加などで増益。連結全体では減益。

■ 営業利益 ■ 増加分 ■ 減少分

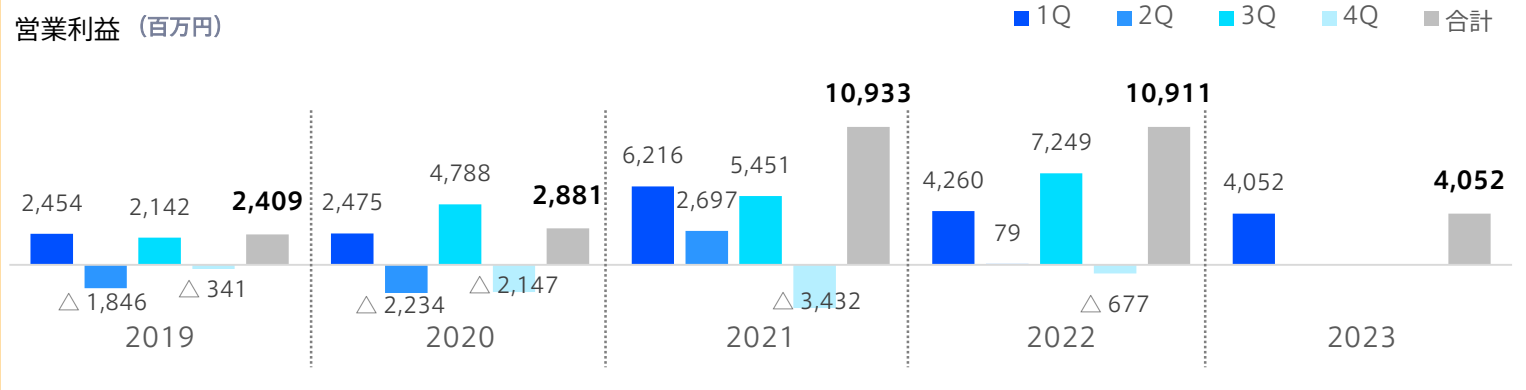
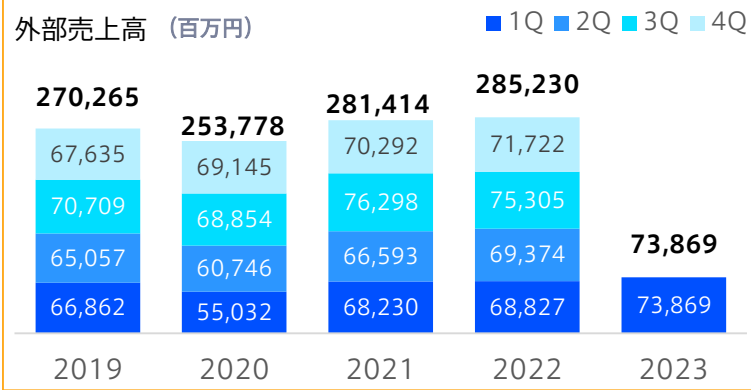
(単位：百万円)



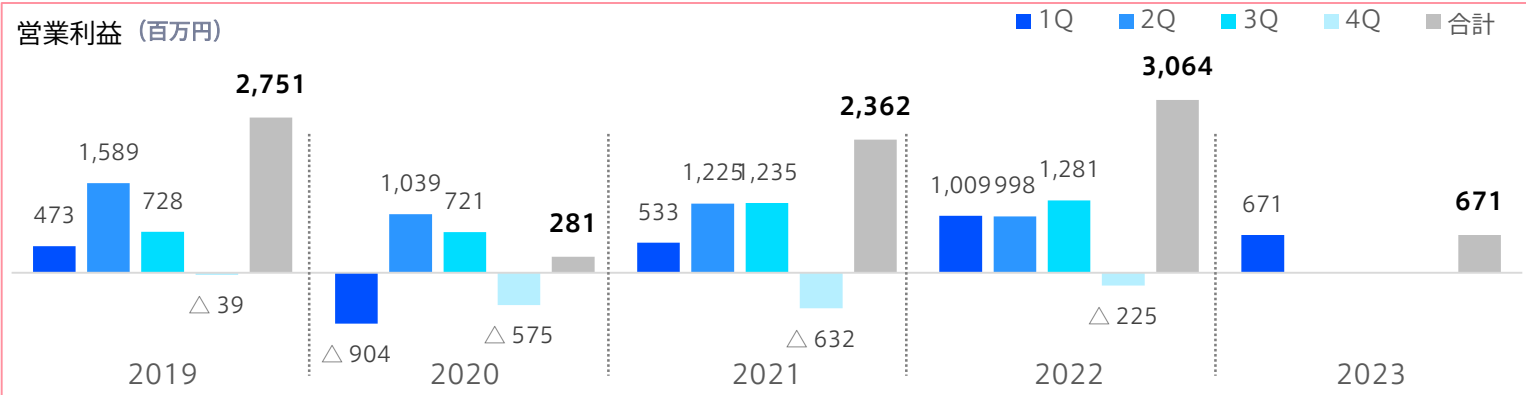
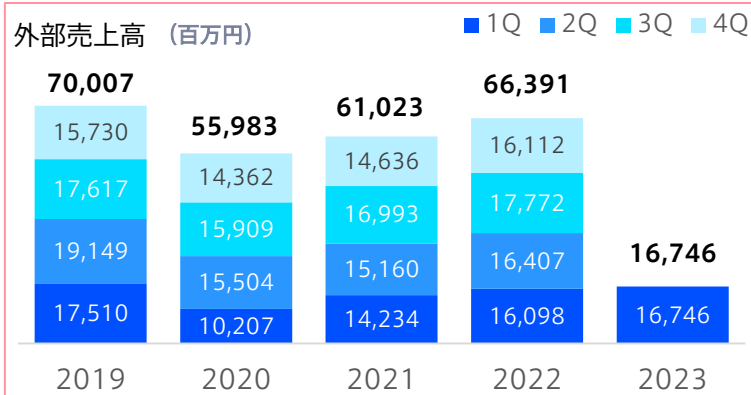


# 連結セグメント別 経年推移

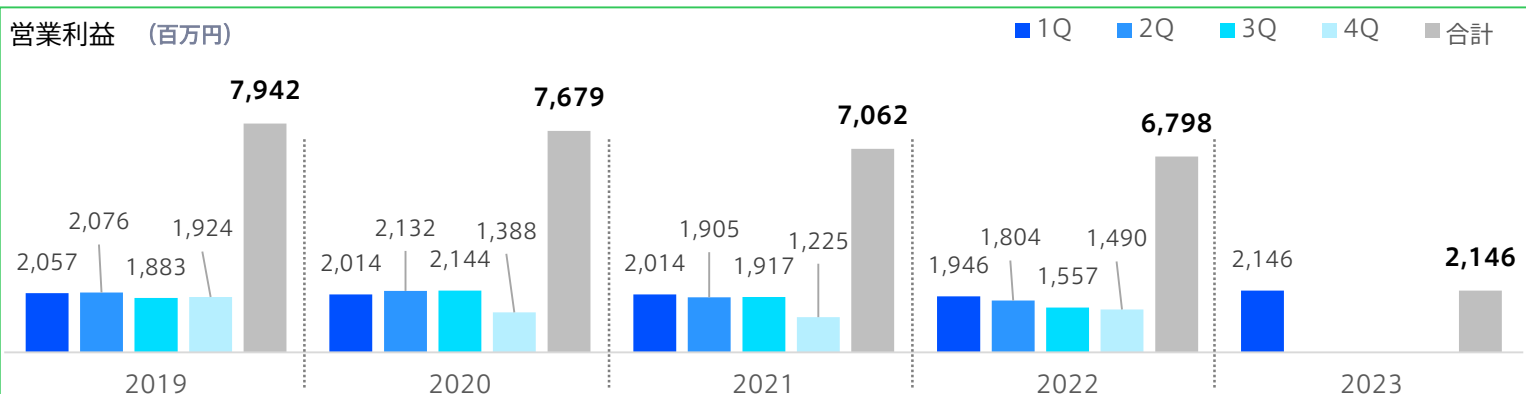
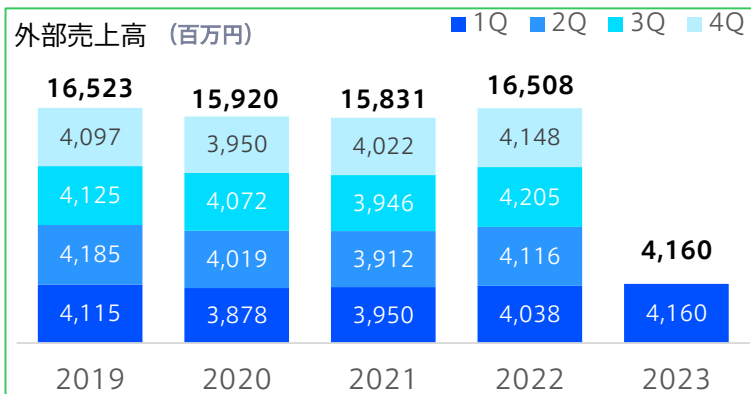
## メディア コンテンツ



## ライフ スタイル



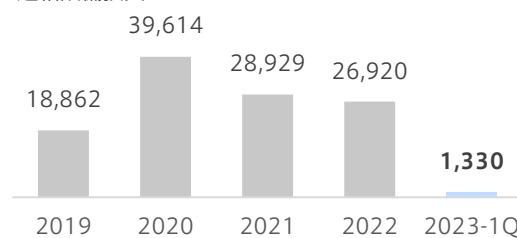
## 不動産 その他



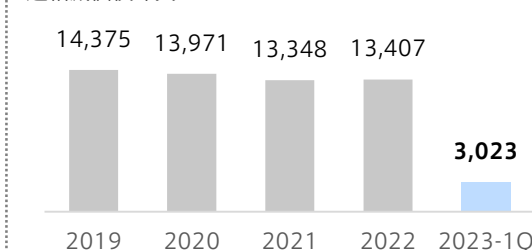
(単位：百万円)

連結	2023年度 1Q(4-6月)	前年差
設備投資	1,330	△12,243
減価償却費	3,023	△197

連結設備投資



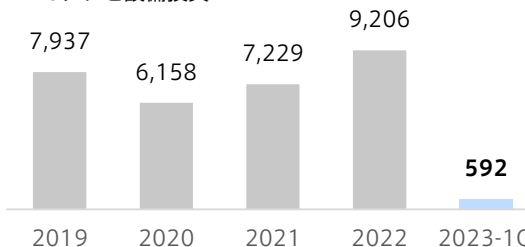
連結減価償却費



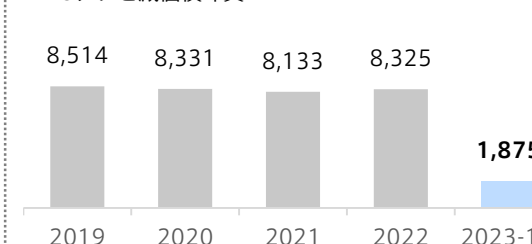
(単位：百万円)

TBSテレビ	2023年度 1Q(4-6月)	前年差
設備投資	592	△3,328
減価償却費	1,875	△111

TBSテレビ設備投資



TBSテレビ減価償却費



2023/6末現在

約**1,260**億円

2023年度  
第1四半期  
約**530**億円

- やる気スイッチグループホールディングスへの投資
- U-NEXTへの追加出資

など

2022年度  
約**230**億円

- 赤坂エンタテインメント・シティ計画への投資
- K-BALLETへの出資
- The Chain Museumへの出資
- Studio TooNの設立
- VOXXの設立
- Amazing Sports Lab Japanへの追加出資
- U-NEXTへの出資

など

2021年度  
約**500**億円

- 海外戦略拠点子会社 (THE SEVEN) への出資
- 赤坂エンタテインメント・シティ計画への投資
- Seven Arcsへの増資

など

中期経営計画  
(2021~2023年度)  
成長投資予定額  
**1,400**億円以上

テレビ部門では、スポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長したことで増収。

事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』のロングラン上演、劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～』の大ヒット、放送関連のグッズやDVD販売の好調などで大幅増収。

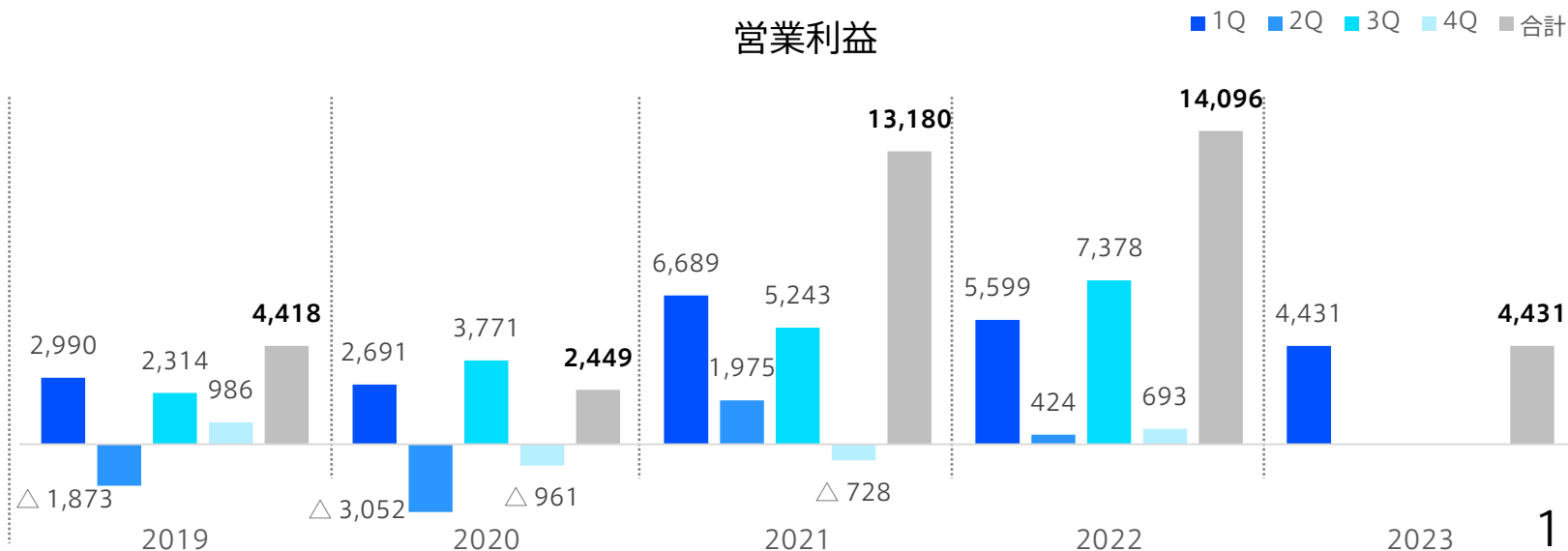
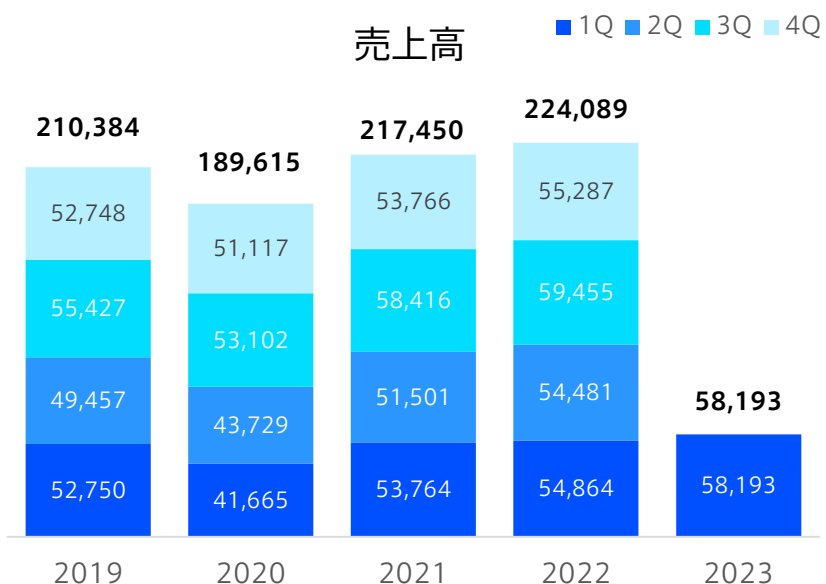
営業利益は、番組制作費の増加などにより減益。経常利益以下も減益。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2022年度 1Q (4-6月)	2023年度 1Q (4-6月)	前年差	増減率
売上高	54,864	<b>58,193</b>	+3,329	+6.1%
営業利益	5,599	<b>4,431</b>	△1,168	△20.9%
経常利益	6,568	<b>5,492</b>	△1,076	△16.4%
四半期純利益	4,651	<b>4,388</b>	△263	△5.7%

## 営業費用など

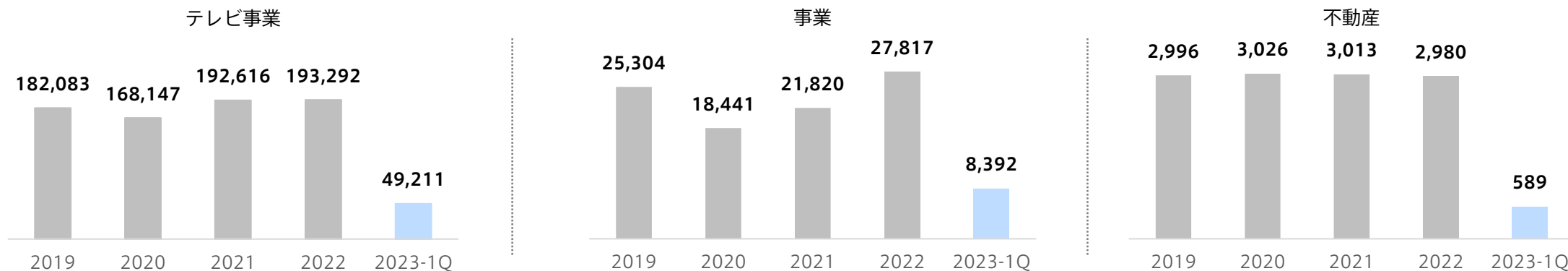
■ 番組原価	+ 1,036
■ 代理店手数料	△ 331 (当期 6,336)
■ ネットワーク費	+ 14
■ 事業部門営業費用	+ 810
■ 特別利益 (投資有価証券売却益)	4,478
■ 特別損失 (退職給付費用, 固定資産撤去費用, 投資有価証券評価損)	3,331



(単位：百万円)

	2023年度 1Q (4-6月)	前年差
テレビ事業	49,211	+1,099
－ タイム	19,665	+99
－ スポット	19,641	△1,867
－ 配信広告 ※	1,552	+377
－ 有料配信 ※	4,523	+2,410
－ その他 ※	3,828	+78
事業	8,392	+2,393
不動産	589	△164
収入合計	58,193	+3,329

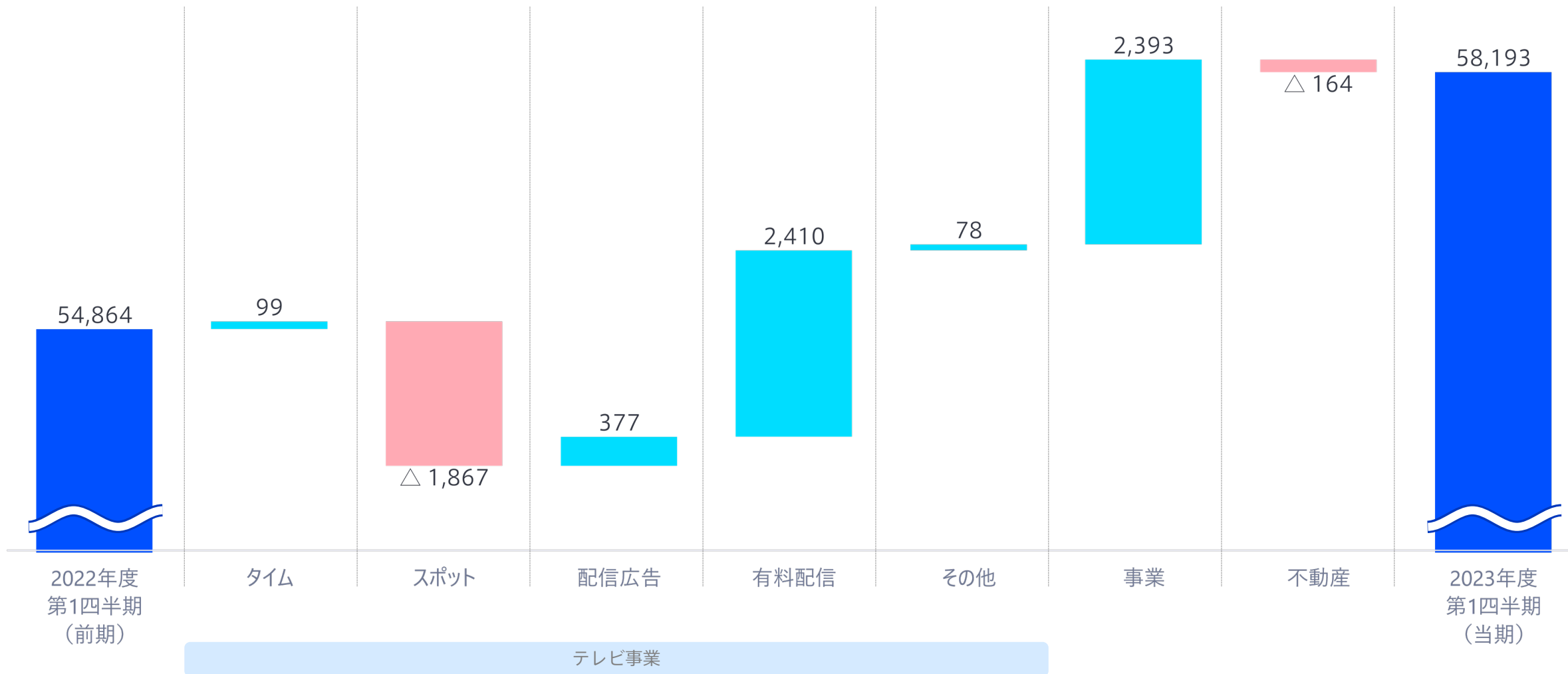
※. 前第1四半期においてコンテンツ区分で開示していた収入のうち、当第1四半期においては配信広告及び有料配信を別掲したうえで、配信広告及び有料配信以外をその他区分で集計しております。  
 なお、前第1四半期について当該変更による組替を行ったうえで前年差を算出しております。



▶ テレビ部門では、スポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長したことで増収。  
事業部門では、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』のロングラン上演、劇場版『TOKYO MER～走る緊急救命室～』の大ヒット、放送関連のグッズやDVD販売の好調などで大幅増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



# テレビ番組原価（制作費）

▶ 第1四半期は、ドラマ・バラエティなど、コンテンツ強化により増加。

(単位：百万円)

### テレビ番組原価に含まれる主な費用

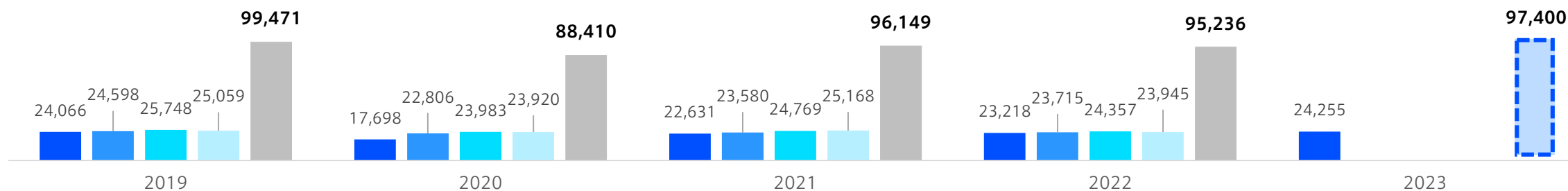
地上波直接費：  
番組制作費、放送権料、美術制作費、技術制作費

その他直接費および間接費：  
地上波以外の直接費、  
減価償却費・社員人件費などの配賦原価

※点線内の通期累計および内訳は、すべて見込みです。

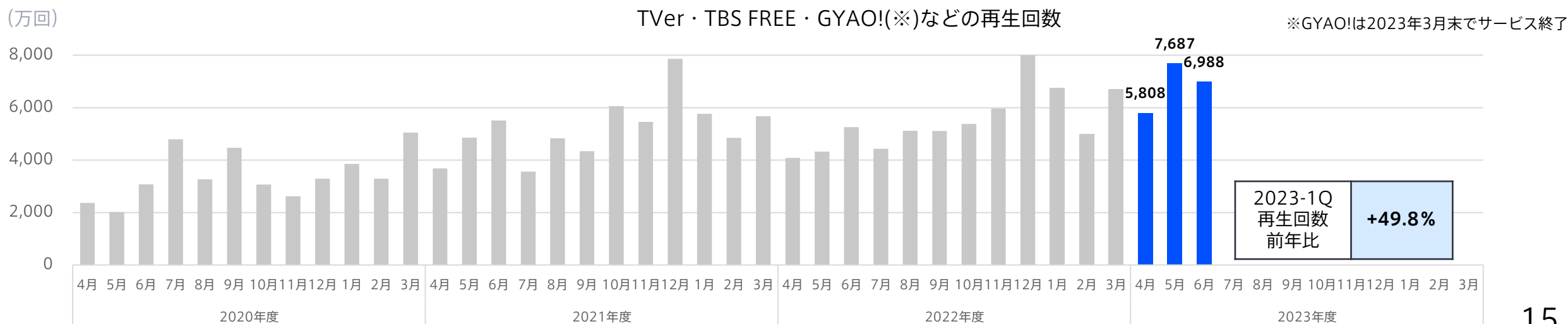
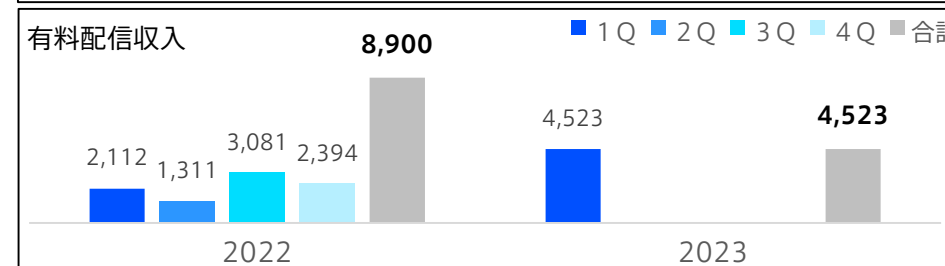
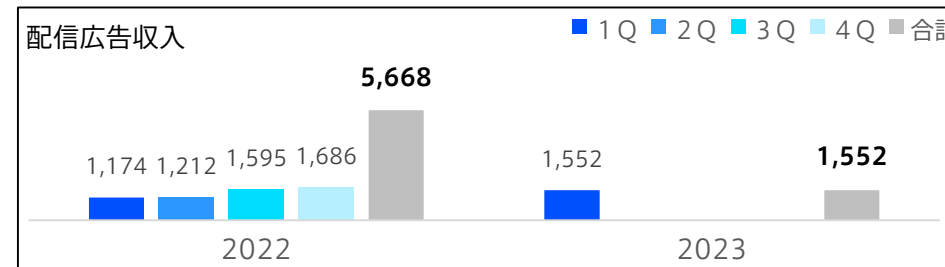
	2022年度実績	2023年度実績	前年差
第1四半期	23,218	24,255	+1,036
(地上波直接費)	18,214	19,042	+828
(その他直接費及び間接費)	5,004	5,213	+208
第2四半期	23,715	—	—
第3四半期	24,357	—	—
第4四半期	23,945	—	—
通期累計	95,236	97,400	+2,163
(地上波直接費)	74,510	76,500	+1,989
(その他直接費及び間接費)	20,726	20,900	+173

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



▶ 配信広告収入は、ドラマやバラエティの好調な再生回数を背景に増収。  
 有料配信収入は、海外配信（Amazon Original「風雲! たけし城」やNetflixシリーズ「離婚しようよ」など）により大幅増収。

	2022年度 1Q (4-6月)	2023年度 1Q (4-6月)	前年差	増減率
配信広告収入	1,174	<b>1,552</b>	+377	+32.1%
有料配信収入	2,112	<b>4,523</b>	+2,410	+114.1%



▶ 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』のロングラン上演、「スターズ・オン・アイス」などが好調で、催事・興行は増収。

映画では、劇場版『TOKYO MER ~走る緊急救命室~』の大ヒットにより大幅増収。

マーチャンダイジングセンターでは、番組関連グッズの売上やDVD販売が好調で増収。事業部門全体で増収増益。

(単位：百万円)

部 門	2023年度 1Q (4-6月)	前年差	主な増減要因
事業 (催事・興行)	2,639	+834	舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』の公演収入に加え、「スターズ・オン・アイス」や展覧会「憧憬の地 ブルターニュ」が好調。
映画	1,576	+1,120	劇場版『TOKYO MER ~走る緊急救命室~』の大ヒットにより増収。
アニメ	282	△471	前年好調であった映画「五等分の花嫁」、「プラチナエンド」の反動減。
グローバルビジネス (旧：海外ビジネスセンター)	668	+166	Amazon Original「風雲! たけし城」の世界配信に伴い、たけし城のフォーマット販売が好調。
メディア事業	2,406	+312	C S事業は、加入者数が減少する中、好調なアロケーションを維持し増収。
マーチャンダイジングセンター	819	+430	DVD販売において「クロサギ」、 「君の花になる~Let's 8LOOM LIVE TOUR~7人の軌跡」が大ヒットし、増収。
収入計	8,392	+2,393	
事業部門営業費用	5,683	+810	
部門利益	2,708	+1,583	



(単位：百万円)

	売上高			営業利益			主な増減要因
	2022年度 1Q(4-6月)	2023年度 1Q(4-6月)	前年差	2022年度 1Q(4-6月)	2023年度 1Q(4-6月)	前年差	
TBSラジオ	2,021	2,000	△21	110	△17	△127	イベント収入は好調ながら、広告収入の減少で減収減益。
BS-TBS	4,191	4,160	△30	741	683	△57	放送収入は堅調だが、事業収入の減少により減収減益。
TBS グロウディア	6,024	8,127	+2,103	△185	321	+507	DVD収入の増加などにより、増収増益。
日音	1,950	2,234	+283	169	240	+71	業務代行収入や邦楽・洋楽収入の増加などにより、増収増益。
TCエンタ テインメント	1,788	2,645	+856	103	399	+296	DVD販売の増加により、増収増益。

雑貨小売販売事業は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴う人流回復や化粧品販売の好調などで増収。  
 通信販売事業は、受注の減少により減収。ビューティ&ウェルネス事業は、化粧品販売の増加などにより増収。  
 グループ全体では、増収ながら、雑貨小売販売事業の原価率上昇や店舗運営コストの増加などの影響で減益。

(単位：百万円)

連結	2022年度 1Q (4-6月)	2023年度 1Q (4-6月)	前年差
売上高	16,099	<b>16,751</b>	+652
営業利益	1,174	<b>851</b>	△322

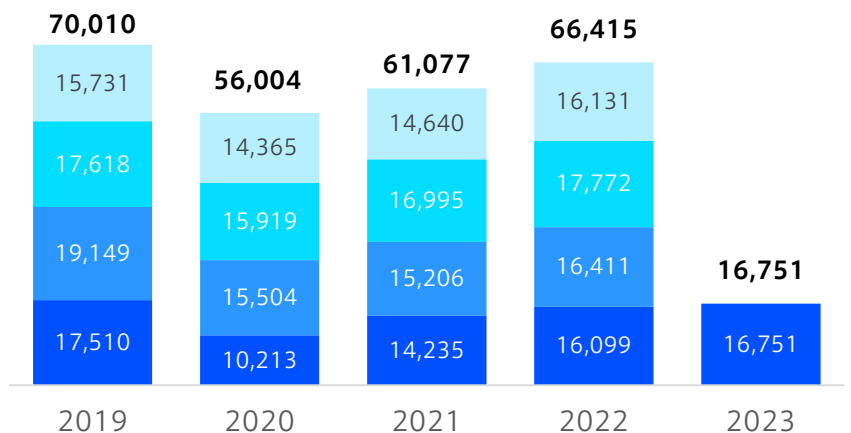
(単位：百万円)

事業別	売上高(※)		
	2022年度 1Q (4-6月)	2023年度 1Q (4-6月)	前年差
雑貨小売販売事業	8,677	<b>9,350</b>	+673
通信販売事業	4,341	<b>4,122</b>	△219
ビューティ&ウェルネス事業	3,158	<b>3,368</b>	+210
本社およびその他	△77	△90	△13
計	16,099	<b>16,751</b>	+652

※事業別の売上高は管理会計上の数値

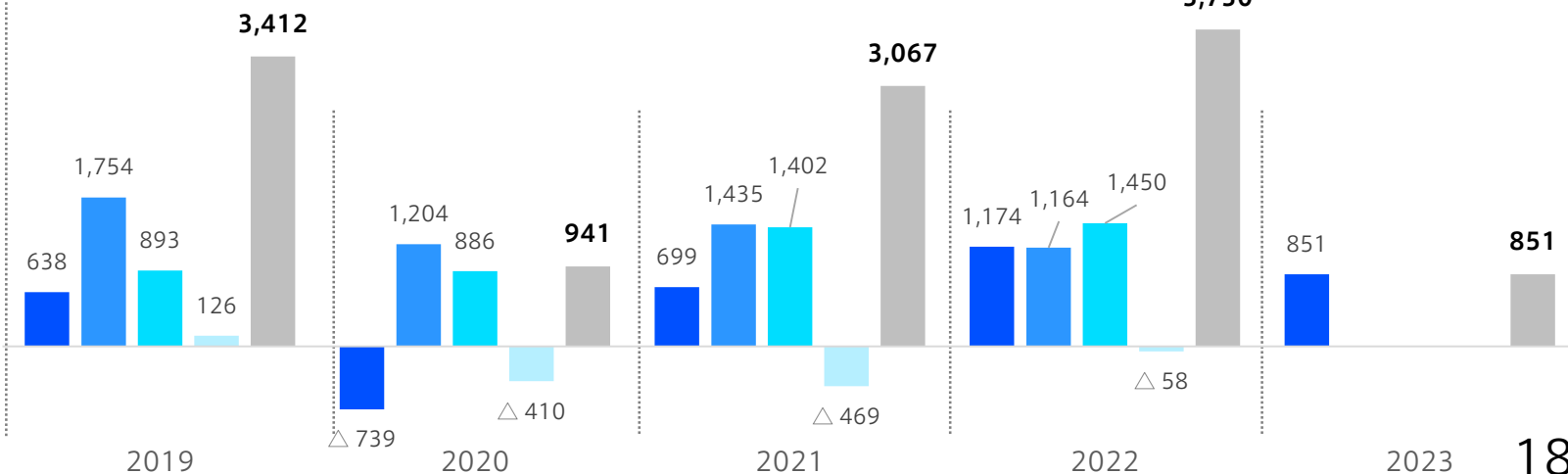
売上高

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



営業利益

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



2023年度 第1四半期決算ハイライト

**2023年度 業績見通し**

株主還元

今後の重点施策

参考資料

# 2023年度 連結業績予想

▶ 連結業績予想は2022年度決算発表時より変更なし。

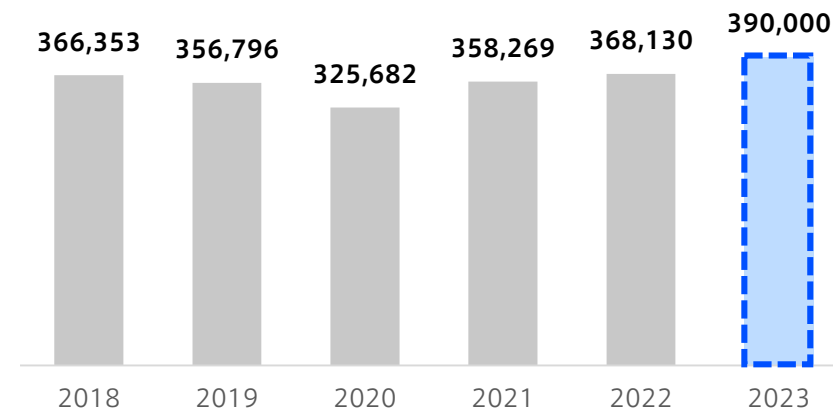
(単位：百万円)

連結	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
売上高	368,130	<b>390,000</b>	+21,869
営業利益	20,782	<b>26,000</b>	+5,217
経常利益	35,086	<b>39,000</b>	+3,913
親会社株主に帰属する 当期純利益	35,182	<b>24,500</b>	△10,682

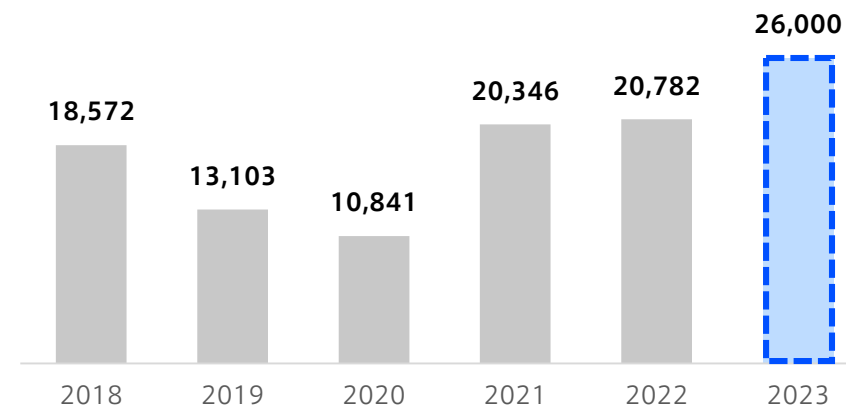
(単位：百万円)

セグメント別予想	売上高			営業利益		
	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差	2022年度 実績	2023年度 予想	前年差
メディア・コンテンツ	285,230	<b>300,500</b>	+15,269	10,911	<b>15,600</b>	+4,688
ライフスタイル	66,391	<b>70,000</b>	+3,608	3,064	<b>3,300</b>	+235
不動産・その他	16,508	<b>19,500</b>	+2,991	6,798	<b>7,100</b>	+301
調整額	—	—	—	8	—	△8
連結	368,130	<b>390,000</b>	+21,869	20,782	<b>26,000</b>	+5,217

売上高



営業利益

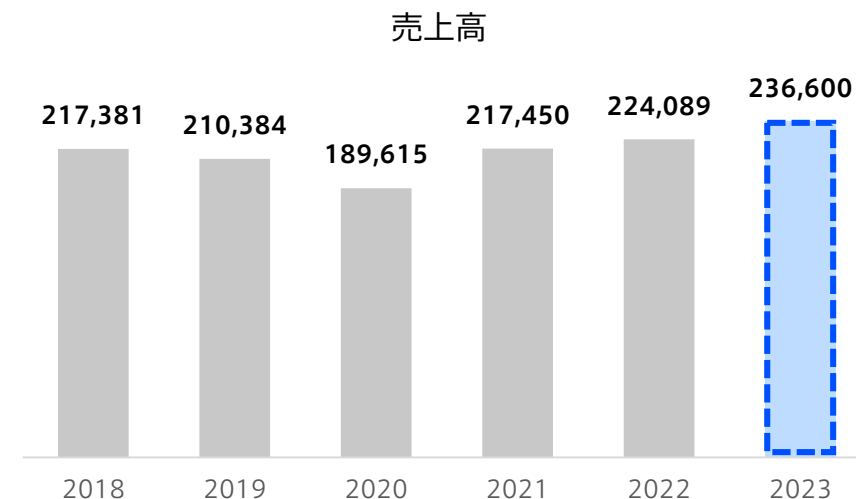


# 2023年度 TBSテレビ業績予想

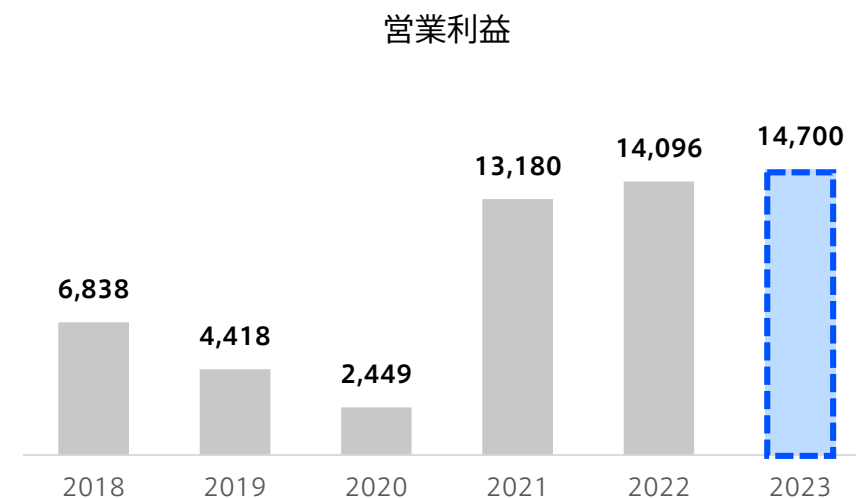
▶ 連結業績予想は2022年度決算発表時より変更なし。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2022年度実績	2023年度予想	前年差
売上高	224,089	<b>236,600</b>	+12,510
営業利益	14,096	<b>14,700</b>	+603
経常利益	16,818	<b>17,100</b>	+281
当期純利益	10,722	<b>11,100</b>	+377



	2022年度実績	2023年度予想	前年差	前年比
タイム	79,916	<b>81,400</b>	+1,483	+1.9%
スポット	82,969	<b>86,000</b>	+3,030	+3.7%
番組原価	95,236	<b>97,400</b>	+2,163	+2.3%



2023年度 第1四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

**株主還元**

今後の重点施策

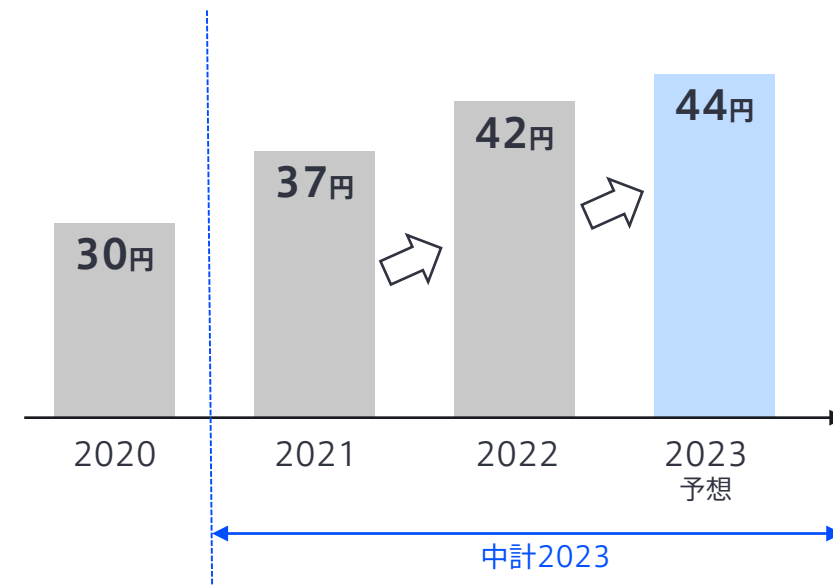
参考資料

<b>基本方針</b>	株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、連結ベースの配当性向30%を目処としつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とする。業績伸長などの際には、特別配当などにより還元の充実に努める。自己株式取得は、これまで通り機動的に検討する。
-------------	---

<b>中計2023 配当方針</b>	1株当たり30円を下限とする。ただし、2期連続で当期利益を生まなかった場合は、下限配当金を見直すことがある。
------------------------	--

	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)	特殊な要因 (★) の影響を除いた配当性向 (%)
	第2四半期末	期末	年間		
2017年度	15	15	30	30.5	30.5
2018年度	16	17	33	22.9	31.7
2019年度	13	17	30	17.3	43.0
2020年度	15	15	30	18.3	59.5
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度	20	22	42	20.1	30.3
<b>2023年度 (予想)</b>	<b>22</b>	<b>22</b>	<b>44</b>	<b>29.6</b>	—

(★) 中長期の収益拡大を目指す成長領域への投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益は、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付けております。



▶ 2023年度は2円増配の44円を予想。引き続き、安定的かつ継続的な配当を実施。

2023年度 第1四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

**今後の重点施策**

参考資料



## TVerの状況

- 月間動画再生数 3.5億回を突破
- アプリ累計DL数 6,000万DLを達成
- 配信番組数 650番組以上 (全局総計)  
(※レギュラー番組)

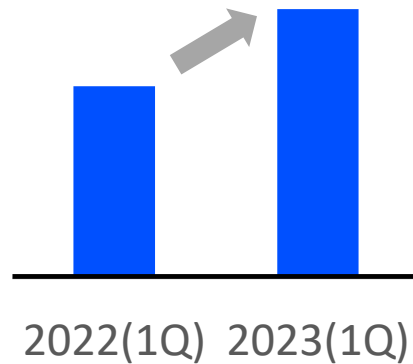
TVerは動画配信プラットフォームとして  
着実に成長中



出所：TVer NEWS RELEASE (2023.6.15)

## TBS(2023-1Q) TVer収入前年比

+40.1%



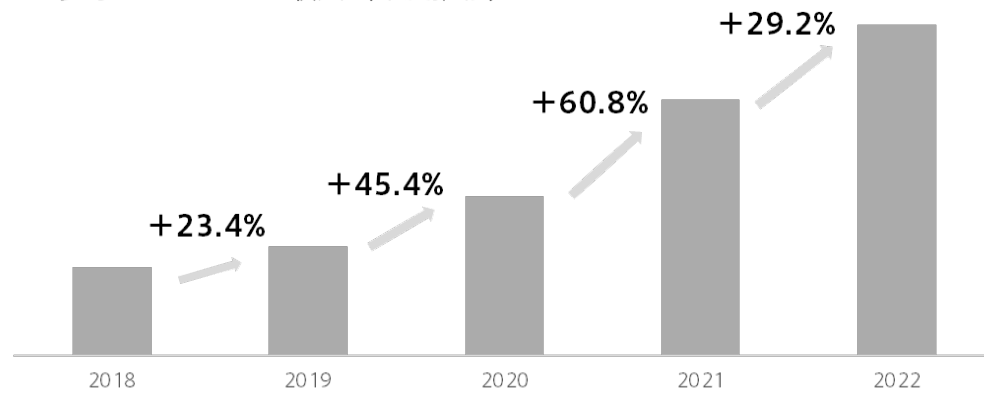
## TBS(2023-1Q) 業種別ランキング

1	酒・飲料
2	化粧品・トイレタリー
3	食品
4	医薬品
5	エンターテインメント・趣味
6	精密機器・事務機
7	外食・サービス
8	情報・通信・放送
9	不動産・建設
10	流通



4月期火曜ドラマ「王様に捧ぐ薬指」が、  
TBSの連ドラとしては過去最高となる  
「1話あたり平均**301**万回再生」を達成。

## 参考：TBSのTVer収入 (年度推移)



7月期日曜劇場「VIVANT」が、  
第1話の再生回数として過去最高となる  
約**400**万回再生の好スタート。

## (株)U-NEXTと資本業務提携強化 追加取得で20%保有 持分法適用関連会社化へ



協業シナジーの創出が相互確認できた場合は、  
更なる連携強化を図るため、

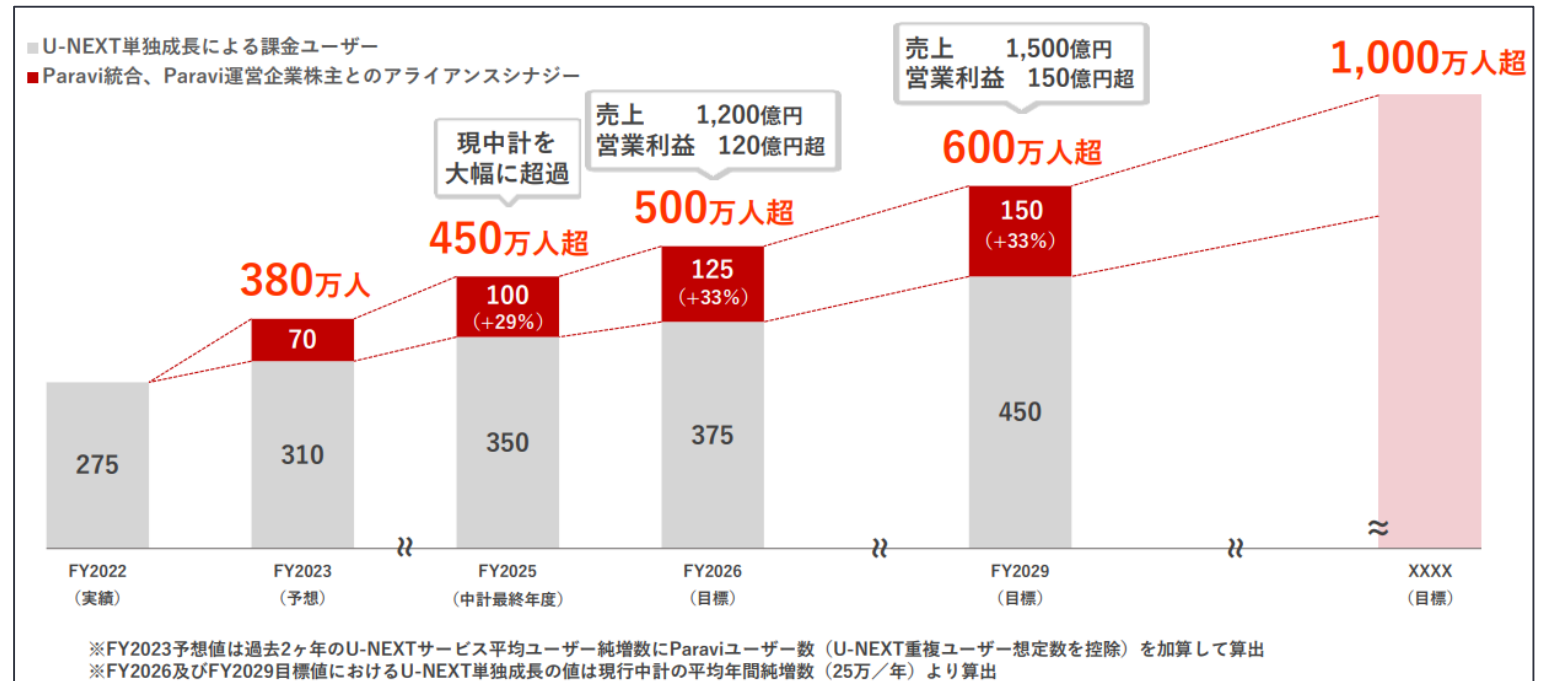
TBSは追加出資によりTBSの議決権比率を**30%**まで  
高めることが可能。

- 2023年3月末にU-NEXTとParaviが経営統合し、国内勢で最大の動画配信プラットフォームが誕生。

U-NEXT 参考数字	売上高 : 800億円以上 (※1)
	有料会員数 : 386.1万人 (※2)
	配信本数 : 動画33万本、電子書籍94万冊 (※3)

- ※1. 2023/2/17発表時点
- ※2. 2023/7/10「2023年8月期 第3四半期決算説明資料」より
- ※3. 2023/7/1時点

- TBSはUSEN-NEXT HOLDINGSと資本業務提携を一層強化するパートナーシップ協定を締結。
- 2023年6月末にTBSはU-NEXT株式を追加取得し、20%を保有。持分法適用関連会社化。
- 2023年7月よりParaviの豊富なコンテンツを含んだ配信サービスが開始、TBSのドラマ・バラエティなど約1万本がU-NEXTで視聴可能に。



## Netflix

### Netflixシリーズ「離婚しようよ」



2023/6/26の公開以降、  
TBS初のグローバル (非英語圏) TV weekly ranking TOP10  
国内でも2週連続1位を達成

### 「トリリオンゲーム」



Netflixでの新作連続ドラマの  
世界配信は5作目。  
今後も毎クール世界配信を行っていく。

# THESEVEN

2023年秋に複数本のラインアップを発表予定



## 知育・教育事業へ本格進出

### (株)やる気スイッチグループホールディングスを連結子会社化

EDGE戦略のE(=Experience)の重点項目の一つである知育・教育事業を推進するべく、やる気スイッチグループホールディングスを連結子会社化。

やる気スイッチグループホールディングスの教育ノウハウ・顧客基盤と、TBSグループのクリエイティブ・コンテンツ制作力を掛け合わせることで、新たな知育・教育事業の共創を目指す。

教育映像コンテンツ  
共同開発

メディアミックスに  
よる利用者拡大

JNN系列との  
シナジー創出

教育コンテンツの  
海外展開



フルオーダーメイド  
個別指導の学習塾



知育と小学校受験  
指導の幼児教室



科学力で運動能力を伸ばす  
キッズスポーツ教室



フォニックスで学ぶ  
英語・英会話スクール



英語で預かる学童  
保育・プリスクール



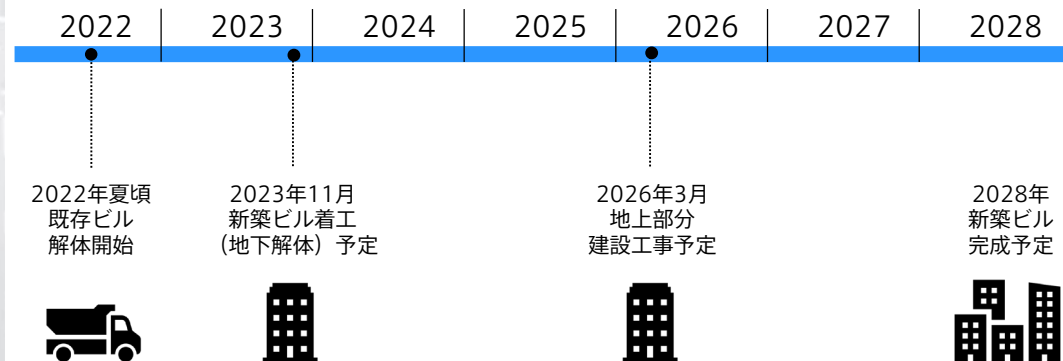
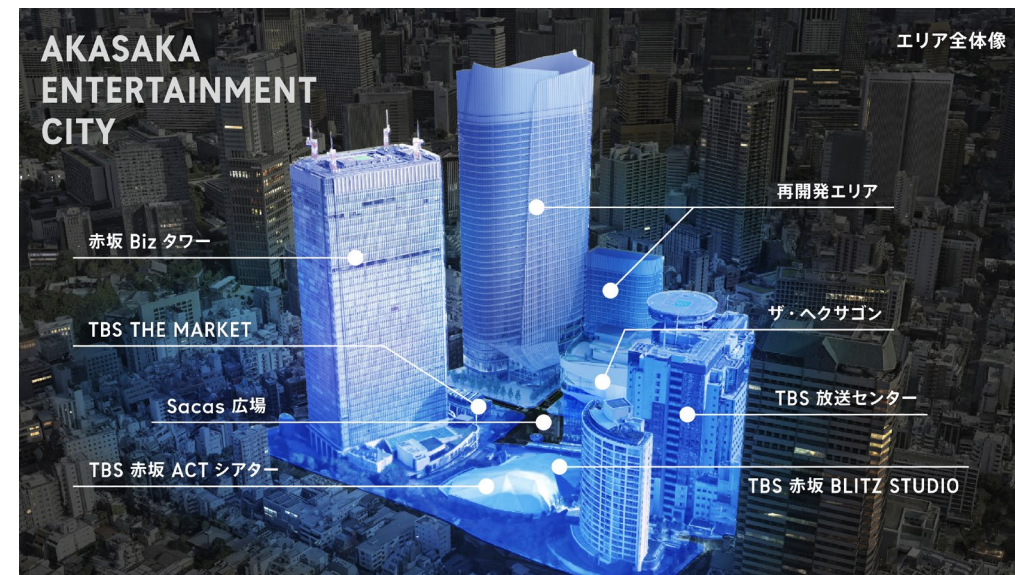
真の国際人を育てる  
バイリンガル幼児園



教育と保育を融合した  
バイリンガル保育施設



世界中のコンピュータ  
サイエンス教育



※青字部分は2028年竣工予定の再開発エリア（写真・イラストはイメージです。）

## ●今後の主なラインナップ

2023/8/3 現在

	期間	タイトル	備考
映画	2023/7/7公開	「交換ウソ日記」	配給：松竹
	2023/7/14公開	「五分の花嫁」	配給：ポニーキャニオン
	2023/9/8公開	「禁じられた遊び」	配給：東映
興行	2022/7/8 - ロングラン	舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』	TBS赤坂ACTシアター
	2023/7/31 - 8/3	「ル・グラン・ガラ2023」	東京文化会館大ホール
	2023/8/14 - 9/10	ミュージカル「ファントム」2023	東京国際フォーラム ホールC
	2023/8/27	LOVE IT! ROCK2023 (ラヴィット!ロック)	国立代々木競技場第一体育館
	2023/9/7 - 24	ミュージカル「生きる」	新国立劇場 中劇場
	2023/9/14 - 18	ミュージカル「浜村渚の計算ノート」	サンシャイン劇場
	2023/10/1 - 11/12	「レディマクベス」	よみうり大手町ホール
	2023/10/8 - 29	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Autumn Tour 2023 「眠れる森の美女」	Bunkamuraオーチャードホール 東京文化会館大ホール
	2023/11/15-26	「ロスメルスホルム」	新国立劇場 小劇場
	2023/11/28-12/17	「ジャンヌ・ダルク」	東京建物 Brillia HALL
催事	2023/7/12-10/2	テート美術館展 光 —ターナー、印象派から現代へ	国立新美術館
	2023/9/20 - 12/11	イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル	国立新美術館
	2023/10/3-2024/1/28	キュビズム展 美の革命	国立西洋美術館



## PLAZASTYLE

デビュー1周年を迎えたPLAZAのオリジナル雑貨シリーズ「PLAZA BASICS」より、日常を「UN-NECESSARY(=不必要)にかわいく彩る」アイテムがラインアップ！  
デイリーに活躍しそうなランチアイテムや、海外のスーパーマーケットのクーラーを思わせる、ユニセックスのアパレルも新登場しました。



あなたの街にPLAZAがやってくる！

PLAZA  
LALAPORT  
KADOMA  
OPEN  
2023.4.17 MON.

PLAZA  
LUMINE  
YURAKUCHO  
OPEN  
2023.9.7 THU.

### PLAZA ルミネ有楽町店

出店場所 千代田区有楽町2-5-1 LUMINE-1 6F  
オープン日 2023年9月7日 (木) 予定



ららぽーと門真店

2023年度 第1四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

**参考資料**



(単位：百万円)

	2023年 3月末	2023年 6月末	比較		2023年 3月末	2023年 6月末	比較
流動資産	209,058	<b>159,318</b>	△49,740	流動負債	104,059	<b>94,012</b>	△10,046
				固定負債	167,621	<b>213,186</b>	+45,564
				負債合計	271,681	<b>307,199</b>	+35,517
固定資産	858,807	<b>1,030,212</b>	+171,405	純資産合計	796,184	<b>882,331</b>	+86,147
				自己資本	780,667	<b>865,433</b>	+84,766
				新株予約権	—	<b>72</b>	+72
				非支配株主持分	15,517	<b>16,826</b>	+1,309
資産合計	1,067,865	<b>1,189,530</b>	+121,665	負債純資産合計	1,067,865	<b>1,189,530</b>	+121,665

四半期末有利子負債残高： 240億円 (前期末比 +40億円)

※リース債務は除く

# 新ファミリーコア視聴率（4～49歳）

(※ [ ]内は前年同期差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
<b>TBS</b>	<b>③1.5[0.0]</b>	<b>②3.0 [0.0]</b>	<b>②2.9 [0.0]</b>	<b>③1.1 [0.0]</b>
日本テレビ	①2.6	①4.7	①4.3	①2.1
テレビ朝日	④1.1	④2.1	④2.1	④0.8
テレビ東京	⑥0.5	⑥1.3	⑤1.2	⑥0.2
フジテレビ	②1.7	③2.9	②2.9	②1.3
NHK	⑤0.6	⑤1.4	⑤1.2	⑤0.5
PUT	9.0 [△0.7]	16.9 [△1.2]	16.0[△1.2]	7.0 [△0.5]

(2023/4/3～2023/7/2：週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

(※ [ ]内は前年同期差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
<b>TBS</b>	<b>④2.6 [△0.1]</b>	<b>④4.1 [0.0]</b>	<b>④4.0 [0.0]</b>	<b>④2.2 [△0.2]</b>
日本テレビ	①3.4	①5.4	①5.1	①2.9
テレビ朝日	①3.4	②5.1	①5.1	①2.9
テレビ東京	⑥1.1	⑥3.0	⑥2.6	⑥0.7
フジテレビ	⑤2.3	⑤3.5	⑤3.6	⑤1.9
NHK	③2.7	③4.9	③4.2	③2.3
PUT	18.6 [△0.9]	30.9 [△1.5]	28.9 [△1.5]	15.6 [△0.8]

(2023/4/3 ~ 2023/7/2 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

# TBSテレビ タイム・スポット収入 対前年比

TBS

(単位：百万円)

	タイム			スポット				備 考
	2023年度	前年差	増減率	2023年度	前年差	増減率	地区投下 (推計)	
4月	7,229	+193	+2.7%	7,201	△179	△2.4%	△5.0%	タイムは、レギュラーセールス好調。
5月	6,380	△179	△2.7%	6,488	△711	△9.9%	△8.3%	
6月	6,055	+86	+1.4%	5,951	△976	△14.1%	△9.5%	スポットは、市況が落ち込む中、好調だった昨年の反動で減収。
7月								
8月								
9月								
10月								
11月								
12月								
1月								
2月								
3月								
1Q	19,665	+99	+0.5%	19,641	△1,867	△8.7%	△7.5%	
2Q								
3Q								
4Q								
通期	19,665	+99	+0.5%	19,641	△1,867	△8.7%	△7.5%	

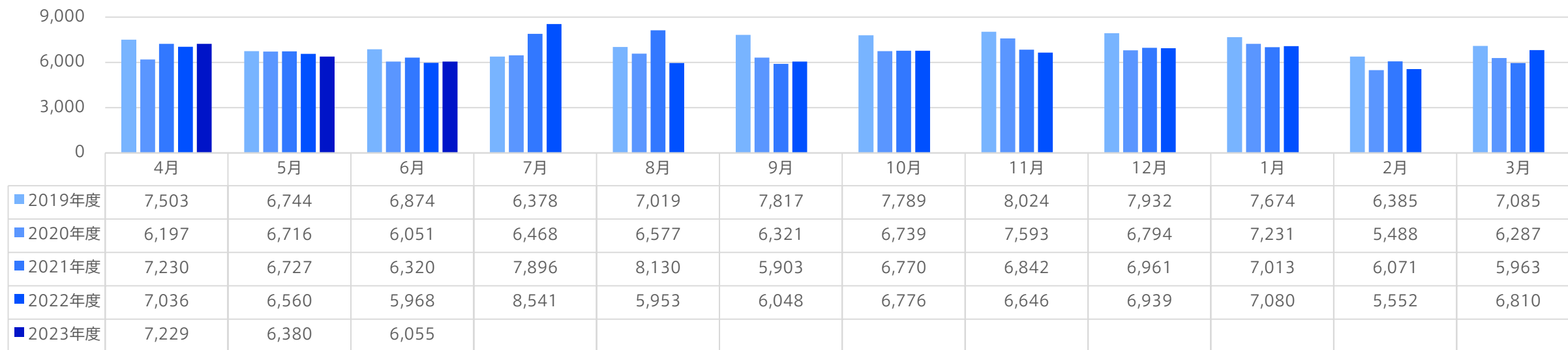
●スポット5局シェア（推計） 四半期推移

2019年度 19.3% (累計)				2020年度 19.7% (累計)				2021年度 20.1% (累計)				2022年度 20.6% (累計)				2023年度 20.9% (累計)			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
20.2	19.2	19.0	18.9	20.5	20.2	19.4	19.3	20.4	20.3	19.7	20.0	21.2	20.6	20.9	19.6	20.9			

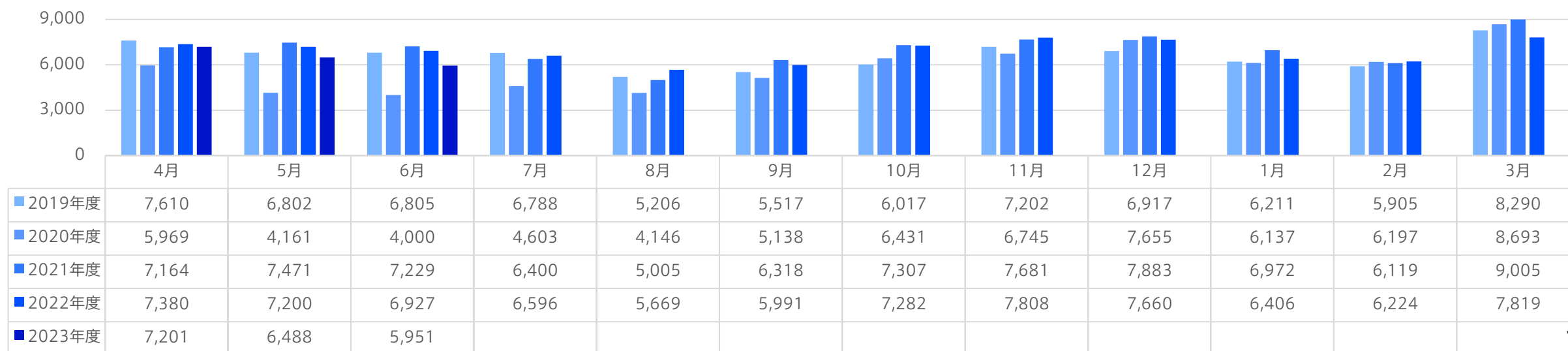
# TBSテレビ タイム・スポット収入 経年推移

(単位：百万円)

## ●タイム収入



## ●スポット収入



(単位：%)

	2023年度 1Q (4-6月)	増減率	シェア	前年同期	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	△1.0	16.6	情報・通信・放送	△12.4	15.4
2	酒・飲料	△15.9	12.7	酒・飲料	+0.5	13.8
3	食品	△13.8	9.0	食品	△5.2	9.5
4	医薬品	△8.8	7.6	外食・サービス	+23.9	8.6
5	交通・レジャー	+34.9	6.8	医薬品	+2.0	7.6
6	外食・サービス	△30.5	6.6	精密機器・事務機	+31.0	5.4
7	化粧品・トイレットリー	+18.8	5.7	金融	+13.4	5.1
8	金融	△5.8	5.3	交通・レジャー	+2.0	4.6
9	エンターテインメント・趣味	△1.9	4.4	化粧品・トイレットリー	△42.1	4.4
10	自動車・輸送機器	+38.7	3.5	エンターテインメント・趣味	+0.8	4.1

※ 順位は金額順

## メディア・コンテンツ/ 不動産・その他 (1社)

(株) TBSテレビ

## メディア・コンテンツ (13社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) CS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグローディア

(株) TBSアクト

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント (株)

TBS International, Inc.

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) マンガボックス

(株) THE SEVEN

## ライフスタイル(7社)

(株) スタイルングライフ・ホールディングス

(株) CPコスメティクス

(株) ライトアップショッピングクラブ

(株) やる気スイッチグループホールディングス

(株) やる気スイッチグループ

(株) やる気スイッチキャリア

(株) YPスイッチ

## 不動産・その他(5社)

赤坂熱供給 (株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

## 持分法適用(6社)

(株) リトプラ

(株) WOWOW

碧芯珞(上海)化粧品有限公司 / BCL China Inc.

(株) Amazing Sports Lab Japan

(株) YGC

(株) U-NEXT